別紙様式２（高）

令和５年度　県立茨城東高等学校自己評価表

<table>
<tr><td>目指す学校像</td><td colspan="2">「何でもチャレンジ！いばらき東」
〇自分の発想やアイディアを大切にし、何にでもチャレンジする姿勢を育成する。
〇学校生活を通じて、集団活動の良さを理解し、思いやりの心を持った良い人間関係を育成する。
(1) 新たな夢・希望を常に持ち続け、自己の未発見の可能性を知る。
(2) 基本的生活習慣を確立し、基礎学力を向上させ、希望進路の実現を目指す。
(3) 感謝の心で生活し、多様性とお互いの良さを認め合える集団づくりを実践する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">三つの方針</td><td>具体的目標</td></tr>
<tr><td rowspan="3">「三つの方針」
(スクール・ポリシー)</td><td>「育成を目指す資質・能力に関する方針」
(グラデュエーション・ポリシー)</td><td>〇グランドデザインの「目指す生徒像」等に対応
①目標に向かって自ら考え、個性と創造力を活かし、一生懸命に取り組むことのできる人財
②知的な好奇心を持って探究し、自らの意志で選択できる人財
③社会の多様性を理解し、地域を牽引するリーダーとして、地域社会に貢献できる人財
④他者を思いやり、公共や倫理を重んじることができる人財</td></tr>
<tr><td>「教育課程の編成及び実施に関する方針」
(カリキュラム・ポリシー)</td><td>〇学校経営計画表の「中期的目標」等に対応
①健全で調和のとれたたくましい人間育成を目指し、規範意識の　高揚と基本的生活習慣の徹底を図るための道徳教育の確立の実現
②確かな学力を身に付けるため、自発的な学習態度や家庭学習の　習慣を身に付けるための指導と、基礎学力の向上を図る教育課程の編成
③ＳＤＧｓについて理解や参加を促すため、地域社会の教育力と　の連携を深めるなど他者と協働し、地域の環境保全や国際理解を図るための体験的な学習と探究する機会の提供
④キャリア教育の充実を図り、アウトプットの学びをとおして進　路意識を高揚させ、進路希望に応じた選択科目を適切に選べるようなガイダンス機能の充実と進路指導体制の確立</td></tr>
<tr><td>「入学者の受入れに関する方針」
(アドミッション・ポリシー)</td><td>〇入学者選抜における特色選抜実施概要の「出願要件」等に対応
①学校生活に目標や活力を持って主体的に臨み、生徒会活動や学校行事、資格取得、部活動等に積極的に取り組む意欲のある生徒
②地域の諸課題や環境保全に興味を持ち、ボランティア活動や探究活動等を通して地域を支え、地域に貢献しようと努める生徒
③学びに向う意欲があり、学校や社会の規範を守って日常生活を　送ることができ、自立した職業人として社会に貢献しようとする確固たる意思を持つ生徒</td></tr>
</table>

別紙様式２（高）

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
１　学校設定科目「ベーシックトライ」における電子黒板の活用と反復学習により基礎学力の向上が見られた。 　学校設定科目である「キャリアデザイン」と「ベーシックトライ」を導入した効果が表れており、進路未決定者が減少傾向にある。 　就職については、学校紹介を希望する生徒の内定率は 100%となった。進学においては四年制大学希望者の中でＡＯ入試や推薦入試で私立大学への進学を果たしている生徒が増加傾向である 　学習に苦手意識を持ち、学習習慣が身に付いておらず、学習目標が設定できない生徒に対してＩＣＴ等を活用して継続的な学習指導の徹底を図る。 ２　基本的生活習慣の確立において指導を要する生徒には、保護者と連携した指導を継続していく。 　全職員一丸となって遅刻指導や服装頭髪指導など身だしなみの指導に取り組んでいる。 　合理的な配慮を要する生徒等への対応は、専門家の指導助言をいただきながら改善を図ることができた。 ３　学校行事に関しては、コロナ禍であっても生徒会を中心として、工夫を凝らして計画以上の行事を開催した。生徒だけでなく教員も一緒になって感動することができた。 ４　自然環境保全活動団体「We are 涸沼っ子！」の活動が地域社会から評価されている。茨城県環境フォーラムにワークショップを出展しボランティア活動等を実施し、地域社会の一員としての自覚や奉仕の精神を培っている。	(1)　アクティブスクールに係る取組のさらなる充実を図る。	①　生徒、保護者、地域の実態及び要望を適確に把握し、全職員の共通理解のもと、アクティブスクールに係る取組を推進する。 ②　実態や要望を学校の将来構想及びグランドデザインに反映させ、特色ある取組のさらなる充実を図る。	
	(2)　生徒一人一人の進路実現に向けた教育活動のさらなる充実を図る。	①アクティブスクールの利点を生かした取組のさらなる充実を図る。 ・「ベーシックトライ」の効果的な実施、ＩＣＴ機器の有効な利活用、習熟度別授業等により基礎学力の向上と定着を図る。 ・「キャリアデザイン」をはじめ、あらゆる機会を捉えてキャリア教育の充実を図り、望ましい職業観・勤労観を育成する。 ②　生徒の実態に即し、生徒が分かる授業を展開する。 ・　チャイム開始による１分を大切にする授業を実践する（チャイム着席指導の徹底）とともに、家庭学習の習慣化を促す。 ・　相互授業参観や校内研修等を実施し、教員相互の資質・指導力の向上に努める。 ③　一人一人の進路希望に添った指導を充実させる。 ・　３か年を見通した進路指導計画を作成し、確実に実践する。 ・　各種資格取得に向けた取組を支援する(一人一つ以上の資格取得を目指す)。 ・　模擬面接指導、各種模擬試験、課外授業等を定期的に実施する。 ・　進路に関する情報を学校全体で共有し、生徒・保護者に正確かつ速やかに提供する。	
	(3)　道徳観・倫理観を育成し、豊かな人間性を培う。	①　「ダメなものはダメ」という厳しい態度とともに、生徒に寄り添う姿勢で指導に当たる。指導は共通理解のもと	

別紙様式２（高）

５　教職員の人員削減により、教職員１人の業務量は増加傾向にある。勤務時間の管理及び縮減に努めるとともに、留守番電話の導入やＩＣＴを活躍した諸連絡の電子化など業務の効率化を図ることで目標を達成することができた。今後も行事の精選や各種委員会の削減等思い切った施策を実行して定時退勤時間や完全退勤時間の徹底を図り、働き方改革を推進していく。 ６　キャリア・パスポートの試みとして、茨城町が主催するワークショップに参加し、町民と連携しての町作りをおこなった。また、英語プレゼンテーション等の各種コンテストに参加し、生徒の得意を伸ばす教育を実践することができた。 ７　授業改善としては、全体的な授業評価として 82%の肯定的な評価を得ることができている。しかし、個々の科目の授業では、生徒から様々な要望があるため、応えられるような柔軟性が必要である。		教職員全体で行う。 ②　生活の自己管理能力を涵養する。 ・　基本的生活習慣を確立させる。『欠席をしない』、『身だしなみを整える』、『あいさつを励行する』、『時間を守る』の徹底を図る。 ・　礼儀や言葉遣いなど、基本的なマナー及び公共マナー・交通マナーを身に付けさせる。	
	(4)　学校行事や部活動を通して学校生活を充実させる。	①　生徒会・各種委員会活動の活性化を図る。（学校への帰属意識の高揚、高い目標での自己実現） ②　校内外での体験的な活動を通じて、自己肯定感を高めるとともに、他者への理解を深め、一人一人の心の成長を図る。 ③　部活動への興味・関心を高め、積極的に部活動に参加させる	
	(5)　家庭や地域に貢献し信頼される学校づくりを推進する。	①　家庭・地域社会と適切に連携協力して、地域から期待され、信頼される開かれた学校づくりを推進する。 ②　学校ホームページやマスコミ等を活用して、学校の教育活動及び生徒の活躍する姿を積極的に発信する。 ③　事件・事故の未然防止に努め、安全・安心な学校づくりを推進する。	
	(6)　働き方改革	①　１月の勤務時間外の校内在校時間合計が、８０時間を超える職員を０人とする。 ②　１月の勤務時間外の校内在校時間合計が、４５時間を超える職員は５人以下にする。 ③　思い切った行事や会議の精選と委員会組織の改編をおこない、生徒と向き合う時間の確保に努める。	
	(7)　キャリア・パスポートの充実	①　生徒が主体となっておこなう茨城町と協働する企画や事業を実施し、広報等で成果を発表する。 ②　生徒の得意を活かすことのできるコンテスト等に積極的に参加する。	

別紙様式２（高）

		③　生徒の進路を見据えた資格や検定の取得にチャレンジさせる。	
	(8)　授業改善の促進	①　生徒からの授業評価として、肯定的な評価 85%とする。 ②　スタディサプリを用いて、ＩＣＴを活用した授業の開発に努める。 ③　教員の持ち味を活かした授業の工夫と展開を図る。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国語	漢字力・読解力を中心とした基礎学力の向上	・始業前の学習準備を徹底させ、服装・態度を見直す指導をした上で始業する。			
		・「ベーシックトライ」と連動し、漢字練習の習慣化を図り、常用漢字を習得させる。			
		・教材研究をしっかりと行い、電子黒板等のＩＣＴを効果的に利用することで、授業内容が理解出来るよう促す。			
		・教科書の音読テストやノート提出等を通して、その達成度を随時確認する。			
	進学・就職試験に対応する実践力の育成	・進学試験に向けて積極的に課外授業に参加させ、過去問題の演習や面接・小論文指導を通して、進路実現に必要な実践力を身に付けさせる。			
		・グループ活動やスピーチなどの言語活動を通して、自分の思いを言葉で伝えるための自己表現力を高め、「社会」で通用する力を養い、生徒自身が自信を持てるよう指導する。			
地歴・公民	授業を受ける態度の育成	・話を聞く態度を身につけ、社会人として通用する力を養う。			
	基礎学力の定着	・基礎学力の定着をはかり、生徒の進路を実現できるようにする。また、生徒に身近な学習内容を吟味し、興味・関心をひくような授業を展開する。			
	進路実現に対する意識の向上	・年次と連携し、授業や課外などで就職試験やセンター試験の過去問題を取り上げることにより、進路実現の意識を高め、就職試験や進学試験に対応できる力を養う。			
数学	授業を受ける態度の育成	・授業開始時間の徹底、ノートを取る、授業者の説明を聞くなどの、授業を受ける態度を育成する。 ・電子黒板やタブレットタブレットなどを活用して、関数や図形など、視覚的に捉え学習できるよう工夫し、生徒の興味・関心を引き出し、学習意欲を高める。			
	基礎学力の定着と、定期試	・学び直しや繰り返し学習を通して、義務教育範囲の学習内容の定着を目指			

別紙様式２（高）

	験の得点の向上	す。課題の提出率 80%以上を目指し、定期試験の平均点 60 点を目標とする。また、成績下位者に対して放課後課外を実施し、欠点保有者を減らす。			
	進学・就職試験に対する意識の向上	・進学・就職試験に対する意識を高めるため課外や検定に積極的に取り組ませ年 3 回の検定が実施できるように人数を確保する。数学検定準 2 級以上合格者を毎年 1 名以上輩出する。授業内で、実際の試験問題等を取り入れ、生徒の進路意識の向上を目指す。			
理科	授業を受ける態度の育成	・学習用具の準備、制服の着用、机上の整理整頓など授業を受ける態度を養う。			
	分かる喜びを実感する授業の展開	・実験・演習を取り入れることにより、生徒の興味・関心を引き出し、科学の基本的な概念や原理・法則を理解できるようにする。			
		・電子黒板を活用し、デジタル教科書やデジタル資料を用いて、授業の中で実験や観察と同様の視覚的な刺激を与え、生徒の興味・関心・意欲を高める。			
		・授業展開を工夫し、生徒が主体的に授業に参加できるようにする。			
	日常生活の中での科学事象への気付き	・新聞やテレビ等で取り上げられた話題を授業に取り入れ、身の回りで起こる現象等に興味を持たせるとともに、豊かな科学的素養を養わせる。			
		・電子黒板を活用し、日常生活の中での科学事象を取り上げ共有するとともに、多角的な視点からの考え方を知ることによって、科学的素養の向上を目指す。			
		・学校設定科目「涸沼と自然」の中で、地域との関わりを深めながら、多くの自然に触れ、科学に対する興味・関心、意欲を持つことができるようにする。			
		・学校保有林の整備や水質調査などの環境学習を通して、我々にできる取り組みについて考え、実行することによって、地域の発展に寄与する			
保健体育	規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立	・「チャイム開始」の徹底や体育時の服装の徹底を図る。			
		・授業を通してあいさつ・礼儀等を身につけさせ、基本的生活習慣を確立させる。			
		・集団での行動や競技におけるルールを学び、公正・協力・責任などの態度を育てる。			
		・準備運動での号令や準備、後片付けを仲間と協力して主体的に行うことができるようにする。			
	心身共に健全な発達と生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うこ	・健康や安全の大切さを認識し、自らの生活習慣を見直し健康を適切に管理することを理解させ実践させる。			

別紙様式２（高）

	とによるよりよい人間形成	・運動することに興味を持ち、体力を高めるための運動に継続的に取り組み、個に応じた指導を通して基礎体力の向上と実践力を身に付けさせる。また、体力テストの値を向上させる。			
	興味・関心を高める授業づくり	・意欲の乏しい生徒に対し、運動の技能を高めるとともに、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。			
芸術	授業を受ける態度の育成	・教室移動を迅速に行い、「チャイム開始」ができるよう指導する。			
		・歌う、楽器を奏でる、静かに鑑賞ができるように取り組ませる。（音楽）			
		・授業開始までに学習に必要な用具用材を準備し、着席する習慣を身に付ける。（書道・美術）			
	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる	・学習活動における各自の目標を明確に示し、それぞれの特徴（歌唱・楽器／古典作品・用具用材）を捉え、主体的に表現する力を身に付けるための基礎基本を理解させる。			
		・鑑賞を通しながら、芸術への理解を深めるとともに、芸術の豊かさを味わうことができるようにする。			
		・幅広い活動を通して、個々の芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ表現させる。			
		・感性を高め豊かな情操を養う。			
	創造的な活動と個性豊かな表現力の伸長	・生徒一人一人の表現力を伸ばすとともに、作品の製作や表現活動を通し、自己の可能性や表現の楽しさを理解させる。また他の生徒の個性を尊重する心を養う。			
外国語	授業態度の育成	・教科書・ノート等の忘れ物がないように指導し、制服を整え落ち着いて授業を受ける態度を身に付けさせる。			
		・チャイム着席・チャイム開始の指導を徹底する。			
	英語の学習意欲の向上	・少人数授業を行い、 グループ活動等の学習形態を工夫し意欲的に取り組める授業を展開する。			
		・パフォーマンステスト等を行い、４技能を学ぶことができる授業を展開する。			
		・デジタル教材等を活用し、電子黒板やその他の教具を活用した魅力的な授業を展開する。			
	基礎学力の向上	・少人数授業の利点を最大限に生かし、反復演習で基本的な語彙と文法知識			

別紙様式２（高）

		の定着を図る。			
		・ベーシックトライを通して基礎学力の向上を図る。			
	進路を意識した学習の充実	・実用英語検定試験や基礎学力診断をより多くの生徒が目標を達成できるよう、課外指導や事前指導を計画し、受験指導を積極的に行う。			
家庭	授業を受ける態度の育成	・学習に必要な教材の準備をさせる。また、実習においては服装をきちんとさせ、衛生面の意識を向上させる。			
	自立できる力の育成	・食領域では、栄養や調理の理論、実習を通して自立できる力を身に付けさせる。			
		・衣領域では、被服の材料やその管理について学習し、自立できる力を身に付けさせる。			
		・クレジットや悪質商法の学習を通して、将来賢い消費者として生きる知識を身に付けさせる。			
	健全な家庭生活観の育成	・食領域では、具体的に献立作成や調理実習を通して、健全な食生活の定着を図る。			
		・衣領域では、被服管理を通して清潔な衣生活の定着を図る。			
		・家庭・家族の学習を通して、健全な家庭生活のイメージを高める。			
商業	進路実現に向け、地域社会に貢献できる社会性の育成	・ビジネス基礎において、社会人として求められる知識を習得し、生涯にわたり自ら学ぶ力を醸成する。			
		・実習を多く取り入れて、思考やアイデアを形として表現できる創造性を醸成する。			
		・商業の諸科目を通して、企業が順守すべき法令や個人情報の大切さを指導することで、社会人として節度ある人財の育成を目指す。			
	資格取得に意欲ある生徒の育成	・情報処理検定等の資格取得に向け、自ら学ぶ生徒を醸成する。			
情報	情報モラルの育成	・学習を通して、情報社会の中で守るべき法律等を身に付け、社会人として必要なルールやマナーを育成する。			
	情報活用能力の育成	・コンピュータの基礎的・基本的な操作技術の習得を目指す。特に、年４回ある検定試験に向け積極的に取組む過程で、情報活用能力を育成する。			
教務	授業時間の確保	・授業変更・振替が前もって確実に行われるようにするとともに、急な填補にもスムーズに対応し、授業時間の確保に努める。			
		・教員が「チャイム開始」「チャイム終了」を心がけることで生徒にもその意識を持たせ、１時間を大切にする授業を実践する。			

別紙様式２（高）

			・学校行事等が特定の曜日・時間に偏らないようにし、教科・科目の授業時数のバランスと授業時間の確保に努める。			
		特色ある教育課程の編成	・生徒(教員)減が進む本校の現状と将来像を見据え、将来構想に即した教育課程を研究する。			
			・年間行事が計画に基づいて円滑に展開されるよう、各部・各年次との連携を密にする。			
		ＩＣＴを活用した授業の促進	・デジタル教材、電子黒板、特にタブレットＰＣの効果的な活用及び教授法を研究し、活用頻度を上げる。			
		各教科・科目の指導法及び評価方法の研究	・授業を積極的に公開し、学習指導の質的向上を目指した校内研修を行う。			
			・各科目の年間指導計画を早期に作成し、計画的な授業実施に努める。			
			・観点別評価に基づいた理想的な評価方法について、他教科と情報交換をしながら研究し、実践する。			
		開かれた学校を目指した地域への情報発信	・学校案内パンフレットやホームページの内容を充実させ、中学生・保護者・地域等への広報活動を積極的に行う。ホームページの更新は一月に４回以上を目指す。			
			・学校説明会を長期休業中などに年間３回、学校公開を 11 月に実施し、中学生･保護者･地域住民が本校を深く理解する機会を設定する。			
		校内情報管理の徹底	・適切な校内情報管理の徹底に努める。			
		後援会の活性化	・後援会について、引き続き規約や運営体制を整え、適正な運営に備える。また、後援会と連絡を密にして学校行事等の円滑な実施を目指す。			
			・スクールバスの運行について、生徒減に対応し、適切な運行と費用負担の軽減を目指す。			
		図書視聴覚の整備と図書館利用率向上、校内放送の活性化について	・書籍や図書資料を充実や備品管理に努め、皆が使いやすい環境を維持し、図書館については生徒の利用率向上を図る。			
			・図書委員の研修会への参加、出前講座受講などの校内活動を通し、図書館利用マナーの意識の向上を図る。図書館だよりの生徒主体の作成･発行を行う。			
			・放送委員会の指導を通し、学校行事における放送設備の準備・当日の運営を円滑に行う。また、昼休みの校内放送を充実させる。			
生徒支援部	生徒指導部門	規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立	・挨拶、礼儀、言葉遣い等を中心に、マナー全般の向上を目指し、継続して指導を行う。			
			・遅刻の減少を図る。（目標達成率を登校生徒の５％未満とする。）			
			・さわやかマナーアップ運動の推進。（身だしなみを整える。）、服装頭髪指導			

別紙様式２（高）

			の徹底を図る。			
		問題行動及び非行化の未然防止	・教員と保護者間の連携を密にし、指導にあたる。			
			・校舎内外及び学校近隣地域の巡回指導の徹底を図る。			
			・教員間での公平、公正な指導と共通理解の徹底を図る。			
			・校外巡回指導及び立哨指導、保護者との連携を密にし、事故の未然防止に努める。			
		交通事故の未然防止	・交通安全講話の実施。			
			・交通安全及び交通法規遵守、ルールやマナーに関する意識の高揚を図るため、ホームルームその他の機会を設定する。			
		自己の安全や健康に関する意識の高揚	・薬物乱用防止（喫煙を含む）については、講習会（外部講師による）の開催などにより指導の徹底を図る。			
			・携帯電話やスマートフォンの適切な利用について、家庭でのルール作りを推進し、講習会（外部講師による）を開催し、指導の徹底を図る。			
			・社会生活、集団生活における自己の役割と責任を自覚させる。			
	保健厚生部門	清掃の徹底と環境整備の充実	・年間計画に基づいて定期検査及び日常点検を実施し、学習環境の充実を図る。			
			・毎日の清掃、一斉清掃の徹底を図る。			
		生徒の心身の健康管理の充実	・健康診断・各種検診の実施と事後指導の徹底を図る。			
			・生徒の健康維持のために担任・保護者・学校医との連携を図る。			
			・各生徒の健康管理を徹底する。			
		防犯・防災意識の高揚	・避難訓練を実施し、防災意識の高揚を図る。			
			・不審者に迅速に対応する防犯意識の高揚を図る。			
		教育相談活動の充実	・教職員、スクールカウンセラー、保護者と連携を図り、生徒への支援を行う。			
			・生徒が相談しやすい環境を作る。			
		校外・校内における研修会の積極的な参加と実施	・校内において研修会を開きカウンセリングの様々な方法を学び、生徒一人一人の悩みや不安に対応する。			
			・校外における研修会に積極的に参加する。			
	特別活動	生徒会活動の充実	・生徒会役員として自覚ある行動を促す。			
			・生徒総会やクラスマッチ、茨東祭などの学校行事において、自主的・自発的な行動を促す。また、生徒が主体的に企画・運営できるよう計画的に指導す			

別紙様式２（高）

	部門		る。			
		部活動の奨励と活性化	・仮入部や部活動見学を充実させ、部活動加入生徒の拡大を図る。			
			・部活動指導を充実させ、運動部・文化部の活性化を図る。			
			・部活動掲示板などを利用し、各部活動の活動状況・活躍を全校生徒に向けアピールする。			
		ホームルーム活動の充実	・ホームルーム役員の積極的な活動を促す。また、ホームルーム活動資料の活用を図る。（道徳教育の充実、東日本大震災や新型ウイルスなどを踏まえた安全教育・体験活動、ケータイ・スマホ利用について）			
			・好ましい人間関係の構築やこころの教育、ボランティア活動をとおして、奉仕の精神を養う。			
		学校行事への積極的に参加する態度の育成	・各ホームルーム役員や各常任委員会の役員として、クラスマッチなどの学校行事に積極的に参加する態度を育成する。また、学校新聞やホームページなどを活用した広報活動の充実を図る。			
			・自然環境保全活動団体「We　Are　涸沼っ子！」の活動をとおして、地域社会や地域住民との交流行事やボランティア活動などに積極的に参加し、地域の活性化に貢献する心や態度の育成に努め、地域の一員としての自覚が持てるように指導する。			
		キャリア・パスポートの活用	・キャリア・パスポートを活用して、高校生活を見通したり振り返ったりしながら、学びを積み重ねて成長させる。例えば、授業や学校行事、部活動などの体験や学びで活用していく。			
進路指導部		生徒の進路決定支援の充実	・各種ガイダンスや、インターンシップ、デュアルシステムの実践を通して、生徒にとって望ましい職業観と勤労観を段階的かつ計画的に育成する。			
			・各年次と連携し、生徒の進路希望に沿った課外を企画・実践し、定着させる。			
			・企業訪問を計画的・組織的に行い、求人の確保を図る。			
			・生徒との進路相談をこまめに実施し、進路選択のミスマッチを防ぐ。			
		情報の共有	・本校キャリア教育のスタイル確立に向けて、キャリアデザイン等の実践を全年次で共有し、効果的な工夫・改善を図る。			
			・到達度テストの定期実施により、基礎学力の定着および学力向上の度合を分析する。			
			・受験報告書や入試情報の分析を積極的におこない、進路指導に反映させる。			
			・ジョブサポーターやハローワークとの連携を密にとり、タイムリーな求人情報を得るとともに、それらの情報を生徒や保護者へ速やかに提供する。			
			・「進路の手引」をさらに活用しやすくなるように編集し、生徒及び保護者へ			

別紙様式２（高）

		の進路情報提供を確実に行う。			
	進路相談環境の整備	・進路指導室や進路資料室を整備し、生徒が進路情報を得たり進路相談しやすい環境をつくる。			
		・進路決定に役立つ文献やDVD等の充実を図る。			
１年次	基本的生活習慣の確立	・時間を守り、時間を意識した行動がとれるようにする。			
		・高校生としてふさわしい頭髪・服装の在り方を自覚し、きちんとした制服の着こなしができるようにする。			
		・きちんと「伝え」「聴く」姿勢とスキルを身に付けさせる。			
		・集団の中にある人間関係を理解し、自他の違いを認めることができようにする。			
	基礎学力の向上	・集中し、落ち着いて授業に取り組む姿勢を身に付けさせる。			
		・「ベーシックトライ」を通して、基礎学力の向上を図る。			
	進路希望の実現	・キャリアデザインⅠを通して、社会人として必要とされる資質や自己の適性について気付かせる。			
		・平常及び休業中課外を計画的に行い、上位層の学力伸長と各種検定の合格率向上を図る。			
	諸活動への積極的参加	・部活動や特別活動への積極的な参加を奨励し、生徒一人ひとりが個性を発揮できる環境を整える。			
		・学校行事や校外活動への積極的な関わりを支援し、生徒どうしだけでなく、いろいろな人とのコミュニケーションがとれるようにする。			
２年次	基本的生活習慣の確立	・時間を守り行動できるようにする。特に授業や集会等のチャイムスタート及び態勢づくりの徹底を図る。			
		・中堅年次としてふさわしい頭髪・服装の在り方を自覚し、正しい制服の着こなしができるようにする。			
		・集団生活の中で必要な姿勢や道徳心を身に付けられるようにする。			
		・あいさつと正しい言葉遣いを習慣付け、コミュニケーション力の向上を図る。			
	基礎学力の向上	・授業に臨む好ましい姿勢を身に付け、学習に集中して取り組むことができるようにする。			
		・ベーシックトライⅡを通して、進路実現に必要な基礎学力の向上を図る。			

別紙様式２（高）

		・タブレット学習を毎日の家庭学習習慣形成につなげられるようなシステムづくりを行い継続的な学習の意識を養う。			
	進路希望の実現	・進路希望の実現に向け、キャリアデザインⅡやインターンシップなどを通して社会人として必要な資質や自己の適性に気付くことができるようにする。			
		・個々に応じた課題の配信により、学力の伸長を目指すことができるようにする。			
		・夏休みなどの長期休業を利用し、オープンキャンパスなどに積極的に参加できるように告知の徹底を図る。			
	行事への積極的参加と集団の一員としての自覚	・部活動や特別活動への積極的な参加を奨励し、生徒一人一人が個性を発揮して活躍できる環境をつくる。そして、茨城東高校の一員としての自覚を持たせる。			
		・修学旅行などの校外活動を通して、社会で必要とされる資質を身に付けられるようにする。			
３年次	基本的生活習慣の確立	・時間を守り行動できるようにする。特に授業・集会等におけるチャイムスタート及び態勢づくりの徹底を図る。			
		・茨城東高校の最高年次としての自覚を持ち、身だしなみや行動面で後輩の見本となるような学校生活を送れるようにする。			
		・「記録する」習慣を身に付け、先見性と計画性を持った行動がとれるようにする。			
	基礎学力の向上	・一つ一つの授業時間を大切に取り組み、バランスよく知識を身に付けられるようにする。			
		・ベーシックトライⅢを通して、進路実現に必要な基礎学力の向上を図る。			
	進路希望の実現	・進学や就職試験対策の模擬試験や課外授業、個別指導を計画し、個々の進路希望に応じた進路指導を実践できるようにする。			
		・計画的に面接練習を行い、入学試験や入社試験に対応できるようなコミュニケーション能力の素地を高められるようにする。			
		・保護者との連携を密にし、進路情報を共有することにより進路先内定後の辞退や早期退職等の予防を図れるようにする。			
	茨城東高校の一員としての自覚と社会人としての準備	・学校行事に休まず参加し、結果よりも100%の力を発揮することの大切さを意識し、助け合い・学び合いの精神を持って行動できるようにする。			
		・各種学校行事においてリーダーシップを発揮し、これまでの本校の伝統を継承していくとともに、将来地域のリーダーとなる資質を身に付けられるようにする。			

別紙様式２（高）

事務部	予算の適正な執行	・公金であるという認識のもと、コスト意識を持ちオープンカウンター方式による見積合わせ等を活用しながら早期かつ効果的な執行に努める。			
	施設設備の適正管理及び教育環境の整備	・定期的に校内巡視を実施し、校内危険箇所の早期発見及び早期改修の実施に努める。また、施設設備の整備・改修など、教育環境がより充実するよう努める。			
	省エネルギー・資源リサイクルの推進	・引き続き省エネルギー（節電・節水等）の推進に取り組み、使用量の削減に努める。特に電気料については、契約電力が前年度を上回らないように注意する。			
		・廃棄物の分別を徹底し、焼却ゴミの排出量を削減する。また、グリーン購入法に適合した物品・コピー用紙等の購入により資源リサイクルを推進する。			
	窓口等での適切な接遇	・学校の第一印象は窓口業務にかかっているという自覚を持ち、来校者や電話での対応をより適切かつ丁寧に行うよう心がける。			

※評価基準　Ａ：十分達成できている　Ｂ：達成できている　Ｃ：概ね達成できている　Ｄ：不十分である　Ｅ：できていない